

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520556

研究課題名 (和文) 近世における触穢観念の受容とその変質

研究課題名 (英文) The acceptance and the change in quality of idea on pollution in the early modern period

研究代表者 中川 学 (NAKAGAWA MANABU)

東北大学・大学院文学研究科・講師

研究者番号：60250651

研究代表者の専門分野：日本近世史

科研費の分科・細目：史学・日本史・近世史

キーワード：触穢観念、死、朝廷、神社、幕府、藩

1. 研究計画の概要

本研究計画の概要は次の 2 点にまとめられる。

(1) 17～18 世紀における触穢観念の社会的受容過程を、朝廷・神社／幕府・藩との関係に焦点を当てて再検討すること。

(2) 19 世紀における触穢観念の変質とその社会的影響を、朝廷／神社／民衆との関係において明らかにすること。

これらは本来的に朝廷・神社世界のものである触穢観念が、いつどのように近世社会へ受容されたのか、そしてこの観念がその後どのように変容したのかを、史料に即して、構造的かつ動的に検討するものといえる。

2. 研究の進捗状況

(1) 17～18 世紀における触穢観念の社会的受容過程の問題に関しては、まず京都上賀茂神社 (賀茂別雷神社) への史料調査を実施し、同神社の公的記録である「社中日次記」の、寛文年間から寛保年間 (1665-1742) までの関係記事について、撮影と紙焼き版の作成をおこなった。

また、仙台藩における正史である『伊達治家記録』や仙台藩の上級武士の記録 (『高野家記録』) などの調査もあわせておこない、これを踏まえて、関係史料の整理・分析に取り組んだ。その方法論は、上賀茂神社・江戸幕府および仙台藩の触穢観念に関する記事を抽出し、その関係性を分析するというものである。

(2) 19 世紀における触穢観念の変質とそ

の社会的影響の問題に関しては、上賀茂神社に加え、京都吉田神社や朝廷の武家伝奏や神社伝奏 (「公通記」(正親町公通)、「広橋兼胤公武御用日記」(東京大学史料編纂所蔵) 関係史料の調査・収集および紙焼き版の作成をおこなった。これを踏まえて、関係史料の整理・分析をおこなうとともに、特に京都の神社と社会 (都市京都の住民) との関係を中心とした検討に取り組んだ。

その結果、19 世紀における穢に関する禁忌意識の後退や規制力の低下などの諸実態が明らかになった。その詳細は触穢観念と吉田神社の祭礼との関係を明らかにした論文 (「近世の触穢観念と神社・祭礼」) および触穢観念をめぐる上賀茂神社の動向を明らかにした論文 (「朝廷の触穢令と神社」『近世の死と政治文化』所収) として公表している。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

研究計画における 2 つの課題について、関係する基本史料を入手し、今後の研究進展のための基盤を作ることができた。課題 (2) に関しては既にその成果を単著などで公にしているが、(1) の課題、特に触穢観念の藩レベルにおける受容に関しては、数度の調査をへても関係史料が十分発掘できていない状況にある。その要因は関係史料の性格によるものと考えられ、現在は調査対象史料を修正している。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度には (1) の課題を中心に、最後の調査・分析に取り組むとともに、全体の研究

成果をまとめる予定である。上記（1）の問題点に関しては、昨年度以降、調査対象史料を変更して、新たに仙台藩の上級武士の記録（『高野家記録』など）の調査・収集をおこなっており、その克服に取り組みたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

1. 中川学、「鳴物停止令」と朝廷、『近世の天皇・朝廷研究』、査読無、第2巻、2009、73-93
2. 中川学、「近世の触穢観念と神社・祭礼」、『近世の宗教と社会』（吉川弘文館）、査読無、第2巻、2008、248-272

〔学会発表〕（計3件）

1. 中川学、宝暦期における神社内争論について－賀茂別雷神社の場合、賀茂関係絵画資料研究会、2009年9月15日、京都産業大学
2. 中川学、近世の触穢観念と天皇、歴史における周縁と共生研究会、2009年7月18日、キャンパスプラザ京都
3. 中川学、「鳴物停止令」と朝廷、近世の天皇・朝廷研究会・第2回大会、2008年9月14日、学習院大学

〔図書〕（計1件）

1. 中川学、吉川弘文館、『近世の死と政治文化』、2009、300頁